

保護者の皆様方のアンケート調査結果や児童のアンケート調査結果等を受け、令和2年度の教育活動の成果と課題、来年度に向けて重点的に取り組んでいく対応策を以下のように示させていただきます。

◎ 教育活動 成果と課題

確かな学力の育成

【成果】

- 基礎的・基本的な知識・技能の定着をめざし、学びタイムや面談の時間を利用し、計算練習や漢字スキル学習の充実に取り組むことができた。
- 少人数による算数指導において、一人一人に応じた適切な支援と指導の充実がなされ、成果が上がっている。
- 各学年の学習の定着（CRT）において、成果が上がっている。
- コロナ禍の制限の中、グループワークを少しずつ取り入れ、対話により深い学びにつながる授業実践を行うことができた。
- 一人一研究授業を実施し、学年で同一単元を共同実践したり、相互参観授業をしたりしながら、教員の授業力向上を図ることができた。
- 夏季休業中に外部講師による算数と道徳の研修会を行い、学習指導の幅がさらに広がった。

【課題】

- 新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」についての授業改善は、今年度コロナ禍で制限が多く、十分に行えなかったことがあったため、引き続き重要である。
- 他校へ授業参観や研修会参加の機会を多くしたい。
- 授業準備、机上の整とん、下敷きの使用、発表、姿勢、チャイム席など、学習のルール（学びのルール 5か条）、マナーの指導が、引き続き、必要である。
- 家庭学習の習慣化が引き続き必要である。
- 国語辞典の活用について検討して行く必要がある。

豊かな心の育成

【成果】

- 特別の教科「道徳」の授業において、提示資料の活用や学年ローテーション授業を行うなど、指導の工夫と効率化が見られさらに成果が上がった。
- リモートでの人権集会を実施するなど、道徳教育、人権教育の充実に努めた。
- 創立50年記念事業（祝う会・航空写真記念撮影・記念植樹）を通して、愛校心や郷土愛を育むことができた。
- いじめ・不登校の未然防止への取り組みや、いじめ・不登校・問題行動に対して、全職員で共通理解をはかり、適切な対応を心がけた。
- 高学年において、悩みごとなど相談できる先生の割合がさらに高くなった。

【課題】

- コロナの影響で図書室の開館制限があったためか、読書に進んで取り組む児童の割合が昨年度より低くなっている。コロナ対策を講じつつも、読書週間以外での図書館利用の呼びかけや授業での積極的な利用を心がける。
- あいさつ、時間を守るなど、基本的な生活習慣の確立について、引き続き指導が必要である。
- 行事、授業において、今年度は体験活動を充実させることができなかった。来年度、コロナが終息したら、地域の方などを再度外部講師として招き、体験活動に取り組んでいきたい。また、介護施設訪問を通して、交流を図りたい。

- ・ピア・サポート活動等に取り組み、共感的な人間関係でつながる集団づくりは、引き続き必要である。

健やかな体の育成

【成果】

- ・体育の授業を中心に、体力づくり運動を進めた。
- ・縄跳び週間を設定し、中間放課に「リズム縄跳び」を実施し、体力の向上に努めた。
- ・新型コロナウイルス感染防止対策について、「日課表モデル」に従い、手洗い・マスク着用・換気を徹底した。
- ・休校期間中、各自が作成した日課表に基づく生活や健康チェックカードによる自己管理を実施した。

【課題】

- ・「早寝・早起き・朝ごはん」の啓発活動は、引き続き大切である。
- ・体力の向上に関わる指導は、引き続き必要である。
- ・コロナの影響で年度初め、外遊びが少なかったため、体力向上のためにも、引き続き進めていく必要がある。
- ・けがが多く発生した。けが、事故の防止について、引き続き指導が必要である。
- ・運動会の在り方について、引き続き検討していくことが必要である。

未来に生きる力の育成

【成果】

- ・自分の夢や目標をもっている（もとうとしている）児童の割合が90%を超えている。
- ・創立50年を祝う会を通して、過去を振り返り、今を見つめ、将来について考えることができた。
- ・情報モラルについて、昨年度の学校評価アンケートに基づき、「末広小ケータイ・スマホ 3カ条」を作成し、家庭に啓発した。

【課題】

- ・プログラミング教育の授業実践を計画的・継続的に進める必要がある。
- ・情報モラルについて、引き続き家庭への啓発について、PTA・学校運営協議会との連携を図りその充実に努めていく必要がある。
- ・情報モラル教育の充実は、引き続き必要である。
- ・外国語活動と外国科の充実は、引き続き必要である。

信頼される学校づくり

【成果】

- ・必要な情報や学校の様子を伝えているという、保護者の割合が98%を超えている。
- ・学校公開ができない中、学校ウェブサイトやメールを活用し、学校生活の様子や必要な情報などを、積極的に発信した。
- ・自分の学校に自慢できるところがあるという児童の割合が高学年でさらに高まっている。
- ・子どもたちを理解し、相談に適切に応じているという保護者の意見の割合が昨年度より高くなっている。
- ・学校の教育活動に、保護者の意見が活かされているという意見が、90%を超え昨年より上昇している。

【課題】

- ・「教育職員の業務量の適切な管理等に関する方針」に基づき、引き続き、多忙化解消に係る業務改善に努め、ワークライフバランスを図る必要がある。
- ・コロナ禍の中、どのような学校公開の在り方が望ましいか検討していく必要がある。

◎来年度に向けての対応策

確かな学力の育成

① 授業力の向上・学力の向上

- ・「わかる・できる・身につく・楽しい授業」、「主体的・対話的で深い学び」をめざし、現職教育のさらなる充実を図り、校内外の授業参観や授業研究を行うなど、授業改善に努める。(基礎基本の徹底、スキル学習)
- ・授業を中心に、学力の向上と人間関係力の向上を目指す研究実践に努める。
- ・学習のルール(学びのルール5カ条)、マナーの全校での共通理解を図り、指導を徹底する。
- ・一人一人に応じた適切な支援と指導の充実を図る。

豊かな心の育成

② 道徳教育・人権教育の充実

- ・道徳の時間の授業研究を組織的に推進し、さらなる授業改善に努める。
- ・学級活動、児童会、委員会活動、人権集会、ピア・サポート活動等を通じて、望ましい人間関係づくりを進める。

③ 生徒指導の充実

- ・職員から進んであいさつするなど、日常のあいさつ習慣を身に付けさせ、自分から進んであいさつできる児童を育てる。
- ・あいさつ、廊下・階段歩行、時間、清掃、係活動、当番活動など、基本的な生活習慣の確立に努める。
- ・職員で報告・連絡・相談に努め、児童理解を進めるとともに、相談活動を充実させ、いじめ・不登校等の早期発見・対応に努める。

④ 体験活動・読書活動の充実

- ・感動を味わえる体験活動の充実を図る。
- ・多様な読書活動を行い、意欲化を図る。

健やかな体の育成

⑤ 体力の向上

- ・体育の授業を通して、体力の向上を図るとともに、外遊び等を進める。

⑥ 健康教育、安全教育の充実

- ・「早寝、早起き、朝ごはん」の定着を図るとともに、食育を進め、自分の健康に関心を持たせ、望ましい生活習慣を育む。
- ・危険予知トレーニング、避難訓練、交通安全を始め、安全意識を高める。

未来に生きる力の育成

⑦ 情報教育の充実

- ・コンピュータ・通信端末の活用を図り、教科横断的で計画的なプログラミング教育と、「末広小ケータイ・スマホ三カ条」などの保護者の啓発を含め、情報モラル教育の充実を図る。

⑧ 外国語活動と外国語科の充実

- ・ALTとの連携を図り、授業研究を進め、さらなる授業改善に努める。

信頼される学校づくり

⑨ 「夢いっぱい 力いっぱい やさしさいっぱい」「すてきな えがおを 広げよう」の合言葉のもと、着実に、特色ある教育活動を進め、末広っ子としての誇りを持たせる。

⑩ 学校公開・学校ウェブサイトのさらなる充実を図り、学校教育の理解を深める。

⑪ 「教育職員の業務量の適切な管理等に関する方針」に基づき、業務改善に努め、学校行事の精選と教職員のワークライフバランスを図る。